

項目	確認事項	届出内容
基本情報	大学等名1(代表大学等)	琉球大学
	大学等名1(代表大学等)※カナ	リュウキウダイガク
	大学等名1(代表大学等)学校所在地	九州地方
	大学等名1(代表大学等)学校種別	国立大学
	大学等名2(連携大学等)	東洋大学
	大学等名2(連携大学等)学校所在地	東京都
	大学等名2(連携大学等)学校種別	私立大学
	科目名	インターンシップ
	学部・研究科等名	観光産業科学部観光科学科
	担当教職員名・役職	平野典男・教授
受講者数(H29年度実績)※インターンシップ参加者数	29	
受入企業等数	16	
受入企業等名	日本トランスオーシャン航空、沖縄ツーリスト、沖縄観光コンベンションビューロー、沖縄科学技術大学院大学、エクスペディア、パタゴニア、ANA沖縄空港、JALスカイエアポート沖縄、JTB沖縄、瑞泉酒造、ハイアットリージェンシー那覇沖縄、NPO法人島の風、観光ネットワーク奄美、宮古島さるかの里ほか	
インターンシップの分類	1.長期(概ね1か月以上)インターンシップ 3.海外インターンシップ 9. 中小企業でのインターンシップ 10. 地元企業・経済団体や地方公共団体等との協働による地域密着型のインターンシップ	
上記以外のインターンシップの分類(記述欄)		
要素①	1-1.当該インターンシップは、就業体験を伴うものになっていますか。	1.はい
	1-2.該当する就業体験	1.企業等における業務への従事
	1-2.で「3.その他」の就業体験の内容(記述欄)	
	1-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	包括連携協定を締結している企業における課題解決型インターンシップを主軸に職場体験型インターンシップも実施している。また、課題解決型インターンシップにおいて、東洋大学国際観光学部と連携して取り組んでいるコースも設置している。
要素②	2-1.当該インターンシップを正規の教育課程の中に位置付け、シラバス等において、インターンシップの実施目的や期待する教育的効果を明確にしているなど、体系的なプログラムとして単位認定が行われていますか。	1.はい
	2-2.該当するインターンシップの内容	3.当該インターンシップは、専門教育科目として実施している 6.当該インターンシップは、選択科目として実施している 7.当該インターンシップは、授業期間中に実施している 8.当該インターンシップは、休業期間中に実施している
	2-2.「9.その他」で実施しているインターンシップの内容(記述欄)	
	2-3.当該インターンシップを実施する年次(記述欄)	3年次～4年次
	2-4.当該インターンシップで付与される単位数(記述欄)	2単位
	2-5.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	観光科学科では学科特色科目群を設置し、その中の1科目としてインターンシップを開講している。実際の職場体験や課題解決を通じ、高度な職業人に必須の実務的な観光マネジメント能力の養成に向けて、理論的アプローチと実践的アプローチの両立を目指している。
要素③	3-1.インターンシップの実施前の学生・企業双方との目標設定や目的のすり合わせや、実施後の振り返り等を行うなどの適切な学修の時間が設けられていますか。また、インターンシップの教育的効果が発揮されるようインターンシップ期間中に適切なモニタリングを実施していますか。	1.はい
	3-2-1.該当する事前学習の内容	1.学生に対して、社会人としてのマナーや守秘義務の遵守、パソコンの使用法等を身に付ける授業等を行っている 2.学生が受入企業の事業内容等に関する事前の調査・研究を行っている 3.学生に対して、インターンシップにおける成果目標の確認や行動計画等の策定を行っている 4.学生に対して、正規の教育課程としてのインターンシップの実施目的や期待する教育的効果の理解を促している
	3-2-1.「5.その他」で実施している事前学習の内容(記述欄)	
	3-2-2.該当する事後学習の内容	1.日報やレポート等を用いて、現場での体験の振り返りを行っている 2.報告会等により、インターンシップの成果について、受入企業や担当社員へのフィードバックを行っている 3.振り返りを実施し、成果目標等の達成について確認を行っている
	3-2-2.「4.その他」で実施している事後学習の内容(記述欄)	
	要素④	

㉓	3-2-3.該当するモニタリング	3.その他
	3-2-3.「3.その他」で実施しているモニタリングの内容(記述欄)	インターンシップ中もしくはその前後に、教員が企業等に赴き、企業担当者・学生と面談している。また、課題解決型インターンシップでは期間中の調査や打ち合わせ等に同行している。
	3-3-1.事前学習の内容に関する詳細(記述欄)	インターンシップの心構え、インターンシップの流れ、企業との覚書・守秘義務等契約事項の説明、評価方法、報告書の作成方法、マナー、名刺作成、写真作成、履歴書の作成指導、企業研究等を行っている。
	3-3-2.事後学習の内容に関する詳細(記述欄)	報告書・礼状作成・報告会(プレゼンテーション)・記者発表会での報告等を行わせている。
	3-3-3.モニタリングの内容に関する詳細(記述欄)	担当教員1名ですべての企業を期間中に回ることはできないが、実習期間中に学生にはインターンシップ日誌の記載、企業担当者には行動評価をしてもらい確認を行っている。課題解決型の場合は、毎回の企業との打ち合わせには学生に同行し、企業担当者とのすり合わせを行っている。
要素④	4-1.インターンシップの教育的効果を定量的・定性的に把握できる手法・仕組みを取り入れていますか。	1.はい
	4-2.該当する教育的効果を測定する仕組み	1.アンケートやレポートの作成をインターンシップの実施前後で実施し、学生の意識や行動の変容について確認を行っている 3.インターンシップによる到達度を具体的に示した評価基準(例:ルーブリック)を整備し、学生及び教員で共有している
	4-2.「4.その他」で実施している教育的効果を測定する仕組み(記述欄)	
	4-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	出勤状況、挨拶・応答・態度・身だしなみ等、積極性・自発性等、関心度・理解度等、総合的視点から、の5項目について3段階もしくは4段階で評価する仕組みにしており、この評価基準については企業・学生双方に周知している。また、実施後の報告書の内容を確認し、学生の意識や行動の変容を確認している。
要素⑤	5-1.一定期間のまとまりのある連続した5日間以上のインターンシップの実施期間を確保していますか。	1.はい
	5-2.該当する実施期間	1.連続した5日間以上の実施期間を確保している
	5-2.で「1.連続した5日間以上」を選択した場合(記述欄)	実習期間10日以上
	5-2.で「2.事前・事後学習を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.で「3.複数の企業等を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.「4.その他」の実施期間の内容(記述欄)	
	5-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	原則として夏季休暇中の2週間と定めている。ただし、課題解決型のインターンシップについては6月から12月までの半年間に及ぶものがあり、その間、月1~2回程度の打ち合わせや、各種活動を行うものもある。
要素⑥	6-1.大学等と企業の双方が関与し合い、学生に対する教育的効果の最大化に努めているなど、大学等と企業が協働してプログラムを設計していますか。	1.はい
	6-2.該当する大学等と企業の協働取組の内容	1.企業や産業界にとっての意義やメリット、必要な成果等を考慮し、企業と協働してインターンシッププログラムを設計している 2.大学等が行う事前・事後学習等に企業等も参画し、協働して実施している 3.企業担当者が学生に対して適切に関与し、目標達成に導くなど、大学として必要な支援を行っている 4.受入企業等も、インターンシップ中の学生に対する評価を実施している
	6-2.「7.その他」で実施している大学等と企業の協働取組の内容(記述欄)	
	6-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	課題解決型のインターンシップでは、どのようなテーマを学生たちに課題として与えるか、地域貢献の視点、企業経営の視点、人材育成の視点等から入念に事前の打ち合わせを行っているほか、実施期間中も細やかな連絡を取り、学生たちに対する指導の在り方について相談しながら進めている。

	7.上記①～⑥で回答した各要素の内容について、詳細が記載されているシラバスなどの資料が閲覧できる大学等のウェブサイトのURL	https://tigon.jim.u-ryukyu.ac.jp/Portal/Public/Syllabus/SyllabusSearchStart.aspx?lct_year=2018&lct_cd=901065001&je_cd=1
問い合わせ先	大学等名	琉球大学
	担当部署名	国際地域創造学部
	担当者役職名	教授
	担当者氏名	平野典男
	電話番号	098-895-8844
	メールアドレス	hirano@tm.u-ryukyu.ac.jp